

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議（第5回）

2 開催日時

令和4年1月21日（金）午前10時00分から正午まで

3 開催場所

市役所 501 会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 構 成 員 西村幸夫、石田芳弘、服部敦、靱山貢、高橋秀治、小川征一、川義満、柴田浩行、久世高裕（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 永井経済環境部長、新原観光課長、小池観光課課長補佐、小澤観光課主査補
- (3) 関係課 企画広報課、産業課、歴史まちづくり課（別室にてモニター視聴）

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
 - 1. 観光戦略の策定スケジュール (資料1)
- (3) 協議事項
 - 犬山市観光戦略（案）について (資料2)
 - 1. 基本事項について
 - 2. 観光を取り巻く現状と課題について
 - 3. 観光の歴史的経緯と資源について
 - 4. 観光戦略の体系について
 - 5. 目標設定について
 - 6. 重点プロジェクトについて
 - 7. 方針別の施策について
 - 8. コロナ禍からの回復プログラムについて
 - 9. 未来に向けて検討すべきことについて
 - 10. 戦略の評価と見直しについて

6 傍聴人

3名

【配布資料】

資料1 令和3年度観光戦略 策定スケジュール

資料2 犬山市観光戦略（案）

参考① 第4回犬山市観光戦略会議（R3.11.19開催） 発言要旨

参考② 第9回犬山市観光戦略会議専門部会（R3.12.27開催） 発言要旨

資料3 佐分委員・梅川委員の意見要旨

7 内容
事務局

皆さん、こんにちは。

本日はお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、「第5回犬山市観光戦略会議」を始めさせていただきます。

この先、観光戦略は令和元年度から全て当初令和2年度に完成というような計画の中で、新型コロナウイルスの影響により1年先延ばしとなり、いよいよ本日が最終の会議となります。

今まで各委員の皆様から様々なご意見、ご議論いただきながら協議に至ることができました。ありがとうございます。

世間では、コロナ第6波ということで過去最高数値が全国各地で飛び交う中、本日から愛知県もまん延防止措置ということでございますが、この2年間で研究してきたことをコロナと向き合いながらどう展開していくのか、やるべきこと、やらなければいけないことをしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っています。

ですので、本日もいろいろご意見いただきますよう、よろしくをお願いします。

そして、本日の会議についてですが、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、お昼の12時までに終了とさせていただきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

それでは、まず初めに西村会長よりご挨拶いただきたいと思います。お願いします。

西村会長

皆さん、おはようございます。

今、課長からもありましたように今日が最後の会議ということなので、戦略の最終文案を確認していただこうと思います。よろしくお願いします。

コロナで1年延びたんですけれども、その分こういう大きな状況をどういうふうに戦略として捉えるかということを考えることができまして、コロナの前に議論していたら、もう今どき使いものにならない戦略になっていたと思いませんし、去年の段階ですとまだ先が見えないものですから議論もできなかったと、そもそも集まることもできなかったということなんですけれども、第何波かの間で多少終息した後どうなりそうかということも見えてきましたし、また特にマイクロツーリズムですとか、この非常に困難な中でもやはり元気がいい事業者の方もいらっしゃるということは、例えば地域に愛されないと観光事業者としてもなかなか大変なんだというようなこと、それまでのインバウンドのことだけを考えていたときには全然議論できなかったようなことが今できるようになってきましたので、そういう意味では新しい時代の戦略に近づいてきてい

るのかなと思いますので、今日もまた最後のご議論よろしくお願ひしたいというふうに思ひます。

事務局

ありがとうございます。

なお、本日も事務局に今年度観光戦略策定支援業務受注者の株式会社国際開発コンサルタンツが同席させていただいております。よろしくお願ひします。

本日は、総数 11 名の中、名古屋経済大学佐分委員、それから國學院大学梅川委員、どうしてもご都合が合わなかったということで欠席の報告を受けております。ですので、9名の出席ということで委員の過半数の出席がありますので、この会議は成立しているということを報告させていただきます。

また、この会議につきましては公開で開催されます。この様子を犬山市役所の 203 会議室にてモニター公開とさせていただいております。

ここで、傍聴の方にお願ひします。撮影については、自席からの撮影でお願ひします。あと、録音については個人のメモとして利用に限るため、切り取って公開するようなことはやめていただくという扱いになっておりますのでお願ひします。

あと、会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますのでよろしくお願ひします。

次に、会議録につきまして、2人の委員が署名するという形になっております。名簿順でいきますと、今回は柴田委員、それから久世委員にお願ひしたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

ここで、事前配付させていただいた資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

それでは、議題に入りたいと思ひます。以降の進行については会議規則に従い、西村会長にお願ひいたします。

西村会長

よろしくお願ひします。

それでは、初めに報告事項で資料 1 のスケジュールですが、その後の議事にある犬山市の観光戦略についてというところ以降も関連しますので、一括して説明させていただいて、そのあとに議論をさせていただきたいと思ひます。

それでは、事務局より説明をお願ひいたします。

(事務局説明)

西村会長 ありがとうございます。
膨大な資料を手際よく説明していただきました。
それでは、ここからご意見、ご質問等があれば伺いたいと思いますけれども、その前に重点プロジェクトのところに幾つか図面とか写真がまだのがありましたよね。あれはどのタイミングで最終版になるんですか。

事務局 ありがとうございます。
今回、戦略会議は附属機関になりますので、今回諮問して答申をしていただくわけですが、この図面については最終版のときまでに写真を挿入ということで考えております。諮問の部分ではないという考え方をしております。

西村会長 公表するときには出る。

事務局 そうですね、完成版までに整える予定でございます。

西村会長 分かりました。
それでは、ご意見等あれば。これ、専門部会の方でいろいろやってもらったので、まずは部会長にちょっと補足していただいて、それで議論に入りたいと思います。
それでは、服部部会長。

服部委員 部会のほうで、本日ご欠席の梅川委員をはじめとして委員の皆様には大変熱心にご議論いただきまして、まさに予定以上の9回にわたる議論をしたということでございます。
もう議論はかなり広範に尽くしております。基本的には反映していただいて十分ご説明いただいておりますので、あえて付け加えることはあまりないというふうに考えております。
部会で特に議論がすごく大きかったところというのは、やはり体制の整備という話をかなりしてきたなあというふうに思っています。それについては、この戦略で十分書き切れることではないところもあって、戦略をつくった後、十分な体制というのをこれから練り上げていくということが重要だろうという話も部会のほうでしてしまして、いかに具体化していくかということが今後にかかっているんだろうなというところを議論して、この戦略をまとめているというところでございます。あえて補足するとそれぐらいです。

西村会長 ありがとうございます、大変な会議をやっていただきまして。

久世委員

それでは久世委員、お願いします。

もう答申間近ということで、ほとんど完成に近いと思うんですが、まだちょっとなんだかなと思う部分を意見として言わせていただきたいと思います。

3つほどあるんですけど、まず1つはやっぱり女性目線というか、これをばっと見て女性が「おっ」と思う部分がかかなり少ない。僕が見ても、全体的なおじさんの匂いが非常にするものですから、この今後の課題ということで、女性の目線もしっかり入れると。性別であんまり区別したくはないんですけど、難しい時代でもあるんですけど、すごくおじさんの匂いがするので、この場を見てもそうなんだけど。最初からずっと言っているんですけど、やっぱりいろんな立場の方が入っていないと、どうしてもそういう方向に行ってしまうので、そこは今後の課題だなと思っています。ずっと、最初から思っていることです。

2つ目ですが、広域連携の部分です。

67 ページにあるんですけど、議会でも議論をしまして、例えば尾張藩ということもここには書いてあるんですけど、尾張藩広域連携推進協議会とかいろいろ同じようなものがいっぱい名前は並んでいる。だけど、それに加盟するのに何十万円、何十万円という金額がだあ一つと書いてあるけど、じゃあ何をやったんですかと聞くと、ユーチューブで動画を作りました、再生回数はこれだけですというのが多かったり、イベントやっていましたといっても、どういう成果があったんですかといっても新聞に載りましたぐらいの、それは犬山の観光にどう寄与したんですか、いや、それはちょっとという話にしかなくなっているので。

その後、79 ページの整理した図を見ても、広域観光のところに丸ぼっちがついていないんです、重点プロジェクトとして。だから、広域連携は大事だけど、何か周りでみんなで一緒にやっというふうになると、どうしても無責任になるものですから、やるんだったら主体的にやらなきゃ駄目だなと。周りを巻き込むようなプロジェクトを組んで、主体的にやっいかない駄目だなと思います。

3つ目ですけれども、ハードの関係で、赤ぼっちになったのが鶺鴒のガイダンス施設のところですかね。今まで遊園ルネサンスで河川敷の遊歩道の整備とかそういうのは議会でも答弁があったりして、かなり具体的にやるんだなというのが見えてきたんですけど、鶺鴒のガイダンス施設のところ、重点プロジェクト、79 ページのチャレンジする施策の一番左上、一丁目一番地みたいな感じの、これは本当にやるのかと。木曽川観光さんの社長もいらっやっっていて、僕もごく小さい株主なんですけど、資料をいただいて来年度は何か補助金いっぱい取れましたみたいな報告があったものですから、そういうハード整備をや

っていくのかなと。

やるんだったら、ガイドンス施設と船自体の強化というのも非常に重要だと思っておりまして。遊園のルネサンスというのは、陸地と川の中の両方の魅力を高めていかなければいけないと思うので、その船の体験の価値を高めるためにはそこも重要だと思います。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

最後のところは質問だと思いますので、答えられるものは答えていただきたいと思います。

事務局

どうもありがとうございます。本当にいろんな意見をいただいてありがとうございます。

鶺鴒の価値を高めるガイドンス施設等の整備は、赤ぼっち付いていて正直ちょっとオーバーラン気味だなと書いていて思います。何も決まっていません。ただ、鶺鴒の問題の根本は鶺鴒舎なんですね。鶺鴒舎が建築して 50 年以上たっていて、非常に老朽化が激しい。雨漏りがしたり、壊れるごとに鶺鴒匠が手作業で直しているという状態です。非常に場所としてもモンキーパークの敷地内にあるということで、勝手も悪いというところになります。

やっぱりこの計画、20 年先を見据えた 10 年の計画ですので、この中でガイドンスも、鶺鴒舎の移転もしくは現在地かもしれませんが、鶺鴒舎の更新というのは絶対に考えていかなければいけないんじゃないかと強く思います。その中でガイドンス機能というのは、せっかくなので当然ながら外に出ていく方向であれば必要だということで、ちょっとあえてチャレンジングにぼっちが打ってあるということになりますので、決まったというわけではないです。

ですので、重点プロジェクトにぶら下がるチャレンジする施策ですね、前回もご説明させていただいたんですけど、全部この予算的な担保とか更新が全てできるものかというところとそうじゃなかったりしますので、チャレンジして、これから道を切り開いていこうというものも多くあります。決まったものだけ載せればいいのかというと、すごくつまらないというか、限られたものになってしまうので、自戒も含めて言いますと、何とかしてチャレンジしていこうというところで、ガイドンス施設が掲載させていただいています。

なので、正直申し上げると内田の河畔整備というチャレンジする施策と鶺鴒の施設の施策の熟度だとか、方針の定まり具合というのは大分違う、他もそうですけど、大分違うものもございまして、やっぱりあえて書いて課題として認識して何とかしていく。この 10 年の間には何らかの決着をつけなければいけないとは思っておりますので、ご理解いただければと思います。

もう一個、船の強化は木曾川観光も一生懸命いろいろ動きをされていると認識しております、犬山市のほうもそういった部分これから進めていくべきだと、高単価・高付加価値化というのも一つのターゲットになりますので、船の改修というのもこれからやっていくべきだと。それで、その船のことは確かに弱いので、少し報告していきたいなと思っています。

ご意見ありがとうございました。

西村会長

ありがとうございました。じゃあ、それに関連して。

久世委員

一言すみません。やっぱり、赤ぼつちにしたらやらなきゃ駄目だと思うんですよ。やれるかどうか分かんないと言っているうちに多分 10 年って過ぎちゃいます。なので、今からでも企画の草案をつくって行って説得しなきゃ駄目だと思うんですけど、政治的に難しくても、これはやるんだと決めて説得の作業にかかっていかなきゃいけないんで、今すぐにでも来年度の予算に調査費でも上げておいて、やれる準備をしておいたほうがいいなと思います。以上です。

西村会長

説得材料としても、ここに書いてあることがお金をつける理由になりますからね。女性の委員というのは今更だけど、やっぱり確かに委員が全員男性で、事務局も全員男性だと確かにそれは問題だというのはありますので、今後の課題ですよ。ありがとうございます。

石田委員

今、久世委員から鵜飼の指摘がありまして、私が木曾川観光の社長もやっているものですから、一番直面している課題でしてね。このことについては、樂觀視できません。ものすごい難しいです。といいますのは、木曾川の川の状態が年々、いわゆる地球環境問題で荒れる方向へ来ていまして、毎年鵜飼が実施できる日が減っています。確実に減ってきています。

それと、鵜飼は鵜匠が主役みたいですけど、船頭がいないとできないですよ。この船頭がもう致命的です。船頭なんていうのはやるのありません、はっきり言って。平均年齢 65 歳ぐらいです。後継者も全く難しいです。これは、僕も安易に社長を引き受けたんですけども、船頭と対話できません、はっきり言って。彼らは彼らの本当のガチガチの世界観がありまして、言うことを聞きません、はっきり言って、率直に言って。ですから、全く違う角度のこれからの継続方法を模索しないと、分かりましたと言っていたら、これいつまで経っても分かりません、これ本当の話。ですから、ちょっと鵜飼事業のことは安易に、これも犬山の一つの大きな大事な観光資源だと言えないです。非常に危機的な状態です。

ですから、全く違う角度の、鵜飼事業も含めた木曾川を使う観光事業をリメイクしないと、今のままでは現実問題として難しいです。それは、木曾川のライン下りというのは名鉄さんがつくられて一世風靡したすごい日本の文化なんですけど、もう一度申し上げますが、木曾川という川は日本の最も暴れ川なんですよ、水量も多いし、変化も多いし。僕も普通の川下りを経験したことがありますけど、ちょっとスケールが違いますからね。安易に、木曾川の非常に重要な観光資源ではありますが、ちょっとこれ深く根本的にリメイクしないと維持できない、楽観視できないというふうに現状思っております。

私も一生懸命考えていますが、一つの大きな希望ではありますけど難しいということですので、観光協会に助けられて、お客さんはあるんです。あるんですが、お客さんの要望に沿えないという現状が、ものすごい厳しい現状があるんです。

ちょっと長くなりましたけれども、正直なことを皆さんに申し上げていかないといけないと思ってね。また、機会があったら皆さんのお知恵を拝借したいです。ポテンシャルとしてはものすごく大きなものがあるものですからね。

はっきり今犬山市の当局に言いたいことは、鵜匠の後継者をつくらないといかんです。もう10年先は駄目、今の鵜匠では、後継者をつくらない。全国の中の鵜飼事業で最も持続可能性があるのは犬山ですから。これは、鵜匠が犬山市の職員である、地方公務員であるということは、最も持続力があります。岐阜の鵜飼よりあります。ですから、そのところを市が本格的に後継者をつくっていく。船頭も市から補助してくれて、要請していますけどなかなかこれはインスタントにできません、船頭というのは。機械化もできません。勘の世界ですから。私も安易に考えていましたけど、船頭に馬鹿にされちゃいました、そんなものできるかと。

ですから、ちょっとこのところは別扱いして、皆さんのお知恵を拝借しながら。今度のインディゴだって、木曾川を目指して来てくれるわけですから。これは名鉄さんの長い歴史の中で、犬山の木曾川観光は名鉄がつくってくれたものです、ストーリーを。だけど、これからの未来に向かって維持していくことは、ちょっと特別の深掘りをしないといけないということを感じております。現実を吐露いたしました。

西村会長

なるほど、ありがとうございます。

少し書き方を工夫して、課題がきちんと見えるような形に感じられるような形に変えていかないといけないということですね。それでも、犬山市だけでもなかなかできないかもしれないので、どういう感じでやるかということですよ。ね。

石田委員 今、岐阜県が特に木曾川の中流域ですから、昔の日本ラインのエリアをえらい力を入れてやるようになっていきます。なっていますが、川、この自然を中々コントロールことは簡単じゃありませんね。木曾川の大自然をこちらの観光の勝手にコントロールすることは、なかなかそんな平板にはいきません、そんなことを感じています。

西村会長 分かりました。
木曾川中流域でも、その話題がすごく出ているように思いました。

石田委員 先生がそうだ。

西村会長 船をどうするかとか、添乗員とか、新しい形での活用をどうするかとか、川沿いにいろんな川港みたいなものを連携して整備してどこかに持ってくるだとかというようなことに関して何かやりたいと。そこに、犬山からきちんとしたインプットを入れていかないといけないですよ。

石田委員 そうです。それは、むしろ愛知県よりも岐阜県ですわ、これは。

西村会長 ありがとうございます。それは戦略的に入れておきましょう。
他にいかがでしょうか。どうぞ、小川委員。

小川委員 先ほど、久世委員から広域連携の件でお話あったけど、おっしゃるとおりで、最終的に報告書で終わっちゃうんですね。
特に、5、6年前ですかね、今やっていますが、愛知県の尾張広域観光協議会が現在もあるんですが、やっぱりターゲットを絞ってやっていかないといかないので、それで、今ここに出てきているのが、小牧長久手の戦いということで、この近隣の市町村である程度協力してできるというものがあるものですから、そういったものを絞って、カテゴリーというか、一応連携をしていくというやり方のほうがいいんじゃないかなと。
これは今おっしゃるとおりで、今まで何々のスライドを作ったとか、どこで発表したとかいうことで終わってきている、今まで連携したケースが多いものですから、今ちょっとこの話を聞いてやはりあるものを上手に使うというのも一つの手じゃないかなというふうに思いますので、一つ提案だけさせていただきます。

西村会長

ありがとうございます。
広域連携の具体的な中身を書き込むということが大事ということです。
他にいかがでしょうか。靱山委員。

靱山委員

今の小川会長の話にも通じるのかもしれませんが、今回いろいろコンセプトから具体的なプロジェクトまで非常にまとめて分かりやすくなっていくかなとは思いますが、何しろプロジェクトが多いものですから、今の話じゃないですけど優先順位をどういうふうに決めて、一気に全部やるなんてことは不可能なので。その中で、この最後のやっぱり 91 ページの推進体制のところになるんですかね。

今いろいろなアイデアが出てきた中で、じゃあその優先順位をどう決めて、どうやって推進していくのかというのがやっぱり具体的に出てこない、失礼な言い方かもしれませんが、絵に描いた餅になってしまう可能性がありますんで、その辺がこれからの肝になってくるのかなというのと、あと個々のプロジェクトは個々に推進していけばいいんですけども、それを取りまとめる司令塔というんですかね、例えばいろんなプロジェクトでブランディングに関わることもやってるけれども、じゃあその全体を取りまとめる司令塔というんですかね、正しいブランディングの方向に持っていか、そういうのというのはこの中ではDMOということになるんですか。ちょっとその辺がどうかというふうに思います。

西村会長

その辺、じゃあ少し説明をお願いします。

事務局

ありがとうございます。

個々のプロジェクトを今取りまとめていく司令塔ですけど、今誰ですみたいなのは正直いない状態ですね。今まで市と協会さんとは一緒にやって、一緒に施策をやっていますが、どうしても一枚岩で本当にやっているかというところがあるので。やはり今回前進できたのはこの推進体制を明確につくって、それで協議の場を設けていこうというのがまず一段階あります。そこで、その中で今お話しいただいたとおり優先順位を決めてやっていく。そこでプロジェクトのリーダーみたいなものが出てくれば、ここの機関に委ねようとか、そういったようなつながり方、展開の仕方というのはあると思います。

最終的に、推進体制で協議のほうを設けていくのは当面は市ではやっていくんだろうなと思いますが、やはり今少し触れていただいたとおり、最終的にはDMO的な推進体制を組織して、それがこの地域をマネタイムズも含めて、あるいは市民の活躍の場づくりも含めて、取りまとめていって牽引していただく

というところが、この10年の中でつくり上げたい未来になります。その中で、当然そこに司令塔というのは生まれてくると、その組織そのものが司令塔になっていくと思います。市としては、そこに伴走していくというところで、そういったような形というのが最終的なゴールになりますが、残念ながらそこまでの道筋というのが方向性は書けたんですけど、じゃあ具体的にDMOの主体といますか、どういう構成でということまでは書ききれていないものですから、課題という形では思っております。ただ、目指したい姿というのは明確にそこだと考えています。

西村会長

もう一点、質問がありましたが、優先順位みたいなものはどう考えていますか、重点プロジェクトで。それはどうですか。

事務局

ありがとうございます。

この施策が60以上あって、非常にたくさんありますが、その中でもやはり重点プロジェクトというのが優先的に進めていくものになると思います。重点プロジェクト、遊園ルネサンスなど8個ありますので、そちらを特に進めていくものだと思いますが、その8個の並びというのは優先順位あるのかと以前会議でお話ありました。ただ、この8個については今のところ優先順位を設けておりません。ですので、こちらやはり推進体制でどうやって進めていくかという中で、すごく残念な言い方になるかもしれないですけど、やれるところはどこだろうかというのをまず考えていって、やれる人、やれるところ、やれる施策はどれだということを推進体制の中で協議しながら進めていくのかなというところになると思います。

西村会長

ありがとうございます。

重点プロジェクトがそれに当たるんだと、8つがね、ということです。

他によろしいでしょうか。

石田委員

さっきちょっと言い足らなかったことなんですけど、実際、行政のほうの観光課は鶺鴒研究会というのをつくって、毎月ものすごくやっておるんです。やっておるんですが、なかなか大きな改革ができないんですよ。それは、議会も議員さん2人入っていますから、議会でも議論してほしいんです。議会でも、もうちょっと鶺鴒を勉強してもらって、木曾川観光なんかの仕事を勉強してもらって、議会の皆さんも一生懸命改革の方向に議論してほしいということを思いました。

行政、何やっておるだけではよくなりません。議会の人が解決策をやっぱり

考えてくれないと、それが一つ。

それから、先生、ちょっと僕、言おうか言おまいか非常に悩んだんですけど、思い切って言います。せつかく僕、役職を与えてもらったから。こういう会議があるときに絶対に犬山城は入ってこないんですよ、今まで。それで、絶えず犬山市の観光だとか戦略には国宝犬山城と言っておりながら、犬山城は一遍もこういう会議に入ったことないんですよ。

だから、こういう会議にもやっぱり犬山城の関係、今、財団になっていますけれども、財団の人も入ってきて、やっぱり我々もこうやってみんなどうやったら犬山市を良くしようか、犬山城をみんな立てているんですけど。だから、その点をやっぱり、犬山城もこういう会議に必ず加わってもらうように、気持ちの一つにすることが大事なんじゃないかなと思っています。異論があるでしょうが、長年感じていたことを今日はちょっとハイになっているものですから、言わせてもらいました。

西村会長

少し、犬山城をこういうDMOとかいろんな会議の中でどう扱うかというのは、少し課題として残っているということは言ってもいいかもしれないですね。

つまり、ここでこんなに一生懸命議論しているのが情報として入っていないというのはお互いに不幸かもしれない。だから、参加の仕方はいろいろ工夫があるかもしれませんよ。

他に何かありますでしょうか。

柴田委員

74、75 ページで域内の循環型の観光経済の確立ということで、何をやるにしても様々なチャレンジする施策の中でやっぱり財源が必要だと思うんですよ。チャレンジする施策、75 ページの下で新たな財源の獲得検討、今聞いておって申し訳ないんですけども、ここの部分にぜひとも力を入れていただきたいというところで、税、利用料、寄附、クラウドファンディングなどと書いてありますけど、私、ぜひとも税の部分で観光税の導入とか、そこも検討していただきたいと思っているんですけども、そういったこともこれからの検討の中で考えていかれるのかどうか、ちょっと確認させていただければと思います。

事務局

ありがとうございます。

観光課をやっておりますと、財政当局からいつも、こういう言い方がいいのか分かりませんが、あんまり大事にされていない感じはあります。当たり前なんですけど、やっぱり教育とか福祉とか、やっぱり大事です。住民生活の根

幹となるもので大事だと思うんですけど、やっぱり観光というのはその中でも余計なものではなくて、市民の誇りであったり、もちろん観光に関わって働いている方もいらっしゃいますし、計り知れないいろんな数字の上でも、数字以外でも、犬山にとって大事なものだと思っています。

その中で、やっぱり稼げと言われるんですね。観光でいろいろやりたいなら、駐車場の使用料だけでなく行政も稼げと言われます。我々、智恵が中々ないものですからいろんな方にお話聞きながら、少しでもと思って財源確保を考えておりまして、そういう意味でここに新たな財源獲得検討というのはあえて書かせていただきました。

これも、残念ながら観光税、じゃあやるぞとかそういうような明確な目標があるわけではありませんが、何らかの形で財源獲得というのは進めていかなければいけないので、ここに書いて、自らじゃあ何ができるのかというのを常に考え続ける必要があるなというところで考えています。

ほかのまちだと宿泊税ですとか、いろんな観光がらみの財源を検討されると聞いていますので、そういった事例も勉強しながら何とかちょっとでも財源が獲得できるようにしていきたいと思っています。

西村会長

ありがとうございます。そういう努力ですね。

柴田委員

理解しました。

西村会長

関連して言うと、やっぱり観光事業というのは観光事業者だけじゃなくて、やっぱり乗数効果というか、ここで落ちたお金が大体2回ぐらい回るんですよ、それは公共事業よりもはるかに乗数効果が高いので、地域のためになっているんだということはいろんなところで理解してもらう必要があるかもしれないですね。

事務局

そうですね。稼ぐ姿勢も大事で、行政がどんどん財源を獲得していく以上に、やっぱり観光で稼いでくださる方、活躍する方がどんどん増えていくというのがやっぱり何より大事だと思うので、我々が逆に民業を圧迫するようなことをしちゃいけないですし、いかにしてこの観光というフィールドに市民の方が関わっていただいて、そこで少しでも稼ぐということを実践していただけるかというのは場づくりも必要だと思います。その上で乗数効果というのもし現れるかなと思いますので、こちらはぜひとも頑張っていきたいと思っています。

西村会長

お願いします。

他にいかがでしょうか。どうぞ、高橋委員。

高橋委員

この全体に関することではないかもしれないんですけど、犬山遊園という名前が何度も出てきます、この中にも。そうすると、まだ犬山遊園という名前を使われるのかなと、これ名鉄さんが付けられた名前であって。ただ、今、犬山遊園の後継施設としての犬山モンキーパークへのアクセスもなくて、ほかの観光客から見た犬山遊園駅というのは不思議な駅名になっちゃって、何とかならないのかなということがあって、この先もこの名前を使うんでしょうか。

榎山委員

今のところは、特にどうこうするというのは。

高橋委員

そうですか、駅名というのは結構インパクト強いと思って。できれば木曾川桃太郎駅にしてほしいなと思っていまして、何かこの駅名だけは、戦略的に見ると非常に重要な位置であって、今後いろいろ出てくる場面が多いものですから、これ我々ではどうしようもなくてですね。

榎山委員

そういうご意向があるということは、私から関係のところには伝えはできません。

高橋委員

それと、インフラのところになるのか景観のところになるのか分からないんですけども、ちょっと当たり障りのないことだけ書いてあって、センスの問題が非常に大きいと思うんですけど、私も観光で訪れたいまち、もう一回行ってみたい、何度でも行ってみたいというところはまちに色があって、特にヨーロッパでも中国大陸でもそうですけども、旧市街というものは、やはりああ来たな、ここに帰って来たなというような色とか匂いとか言葉、例えば京都だったら京都弁も入るかもしれない。それから、鐘の音とかいろいろあるんですけども、その辺が少し弱いのかなという、表現が弱いというか、これセンスの問題なんですよ。

今の犬山駅前西口からずっと歩いてもらうと色もむちゃくちゃ、昭和と平成と江戸時代とぐちゃぐちゃにもうなっちゃって、何か統一感がなくて、色も何色なんだろうということを毎回思って、そこにピンク色のバスがばーって通って行くのが非常に私は気に入らないんですね。その統一感を何となくゾーンごとでいいですから、せめて城下町を、我々旧市街と呼ぶのか知りませんが、何かセンスのいい人がやってくれると指導してくれるといいなと。すみません、雑ばくな意見なんですけど、以上でございます。

| | |
|------|--|
| 西村会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、その 53 ページに住民と観光客が共存・調和した城下町エリアと書いてわざわざ色をつけて、先ほど説明にもあったので城下町エリアが実感できるようなちゃんとした施策、それは多分観光からもう少しほかの部局に課題として投げかけるということ、全市としてやるわけですからね。どうですか。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。</p> <p>高橋委員の全くおっしゃるとおりで、何とか改善していかなければいけないなというところになります。</p> <p>この戦略の中では2つありまして、今、西村先生も言っていたところで、城下町景観・観光レベルアップというのが6-3の重点事業でありまして、やっぱりこの町並みの在り方とかそういったところはもう一回考え直していくべきであると。庁内の話ですけど、我々観光サイドだけではなくて都市計画の範疇にもなりますし、実際に土木工事をする整備課もかかってくるので、都市整備部との連携というのも今進めておりまして、そういったところは。</p> |
| 高橋委員 | <p>ちょっと縛りも弱いですよ。勝手に変なもの建てちゃうものすごい残念ですもん。</p> |
| 事務局 | <p>おっしゃるとおりです。少しずつ改善していければと思います。</p> <p>あと、旧市街ではありませんが、遊園ゾーンというところでこれから歩道の整備なんかも目指していきたいなと思っているんですけど、あちらが旧市街と言っているのかちょっと失礼ですけど、かつて旅館街として非常に栄えた場所で、旅館街として復活するという意味ではないんですけど、もう一度人々が市民も観光客もここに来て、ああ来たなと、見上げるとお城があつて非常にきれいな歩道空間があつて、当然ながら楽しめる店とか施設もあるという、そういったような新しい空間、かつてにぎわいのあつた、でも違う令和版の新しいにぎわいゾーン、そこはセンスのいい空間でないとガチャガチャではいけないので、何とかしてそれは空間づくりを進めていきたいなと思っております。よろしくをお願いします。</p> <p>そこも、結局、観光だけでやろうとすると整備が入りますので、庁内では都市整備の部局とも連動しながらやっていくべき課題かなと考えております。</p> |
| 西村会長 | <p>文言として、それは入っているんですか。</p> |
| 事務局 | <p>遊園ゾーン、入っています。城下町の景観についても入っています。</p> |

西村会長

ありがとうございます。

言葉として表現してあって、それでこれは全市としてまとめるわけなので、じゃあ、そのところはきちんと対応、今後の課題として対応していきたいということです。

他にいかがでしょうか。川委員。

川委員

同じ行政の立場から、本当によくまとられたなあという気がいたします。前回の意見も踏まえて大局的な部分、それから具体的などころもここまで書き込むとこれからの覚悟というのが必要になってくるという気はいたします。お疲れさまでしたという言葉が。

今回のところで、18 ページで、例えば名古屋宿泊から犬山宿泊への誘導、MICE客の誘致というところもありますが、やっぱりこれから環境変化としてはインディゴ、ミュースタイルというところが今回の大きな環境変化かなと思います。今までは、多分遠くから来ても犬山城下町、犬山城に行くとか、明治村にピンポイントで行って名古屋に泊まりますという形だったと思いますけど、今後の可能性としてインディゴ、ミュースタイル活用というところを取り込めるのかなと。

一方で大事になってくるのが、やはり滞在しているときに楽しんでいただくマルシェ、朝市、それからナイト観光ですね、この辺のところは具体化が進んでいくといいなという気がいたします。

それから、認知度というお話がありました。これも、県でも進めていますけど、フックが必要で、どこにでもあるもので誘致してもなかなか皆さん足を止めてくれない、旅行会社も振り向いてくれないんで、ここもやっぱりインディゴというのは一つ大きいのかなと、日本にそんなに幾つもあるわけじゃない。県で言えば、来年度はジブリパークなんかから進めていきますけど、やっぱりフックがあって、その後ここ犬山城、城下町がありますというような、そういったところもありかと思います。認知度向上については、県のほうも関東、関西、プロモーションしておりますし、コロナが終わったら海外の旅行代理店さん、これも直接アプローチしたいと思います。なので、また一緒にやっていただければと思いますので、よろしくお願いします。本当にお疲れさまでした。

西村会長

ありがとうございます。

その滞在型のところは、どういう形で書き込んであるんですかね。ナイトタイムエコノミーとか、ここに滞在できる戦略としては。

事務局

重点プロジェクトを8個進めていくと、目的・課題である滞在宿泊というのを伸ばして、基本理念で滞在体験というのを伸ばすというのにつながると思いますが、方針別の施策の中でやはり、69 ページ以降ですが、取組みの方向性は読み上げませんが71 ページでチャレンジする施策というのがあります。今、川委員がおっしゃっていただいたとおり、上から6個目、ナイトタイムエコノミーというのが非常に大事にはなってくるなど。それにはイベントも必要ですけど、例えば一つイルミネーションだとか、ライトアップだとか、夜歩いてみたいなど、夜じゃないと体験できないような何かコンテンツというのが大事になってくる。加えて、夜だけではなくて朝に楽しめるような、それはマルシェになるかもしれませんし、朝に何か特定のイベントがあるのかもしれませんが、そういったようなところはやっていかなければいけないなというふうに考えておまして、ここにあるチャレンジ施策を一つずつ、それが滞在宿泊につながっていくというふうに考えております。

西村会長

ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。どうぞ、服部委員。

服部委員

幾つか、部会の立場とは別に申し上げておきたいことがあります。先ほど高橋委員がおっしゃった犬山遊園という名前、駅名を変えるというのは大変なことだと思うんですけども、まさにあそこの場所が新しい取組みができてふさわしい名前がもし出てくるのであれば変えていくということも十分あるだろうというふうに思うんですけども、あえて私の立場、考え方から申し上げますと、せっかくあそこに犬山遊園という名前がついたという歴史的な経緯はやっぱりもう一つ大事にしていくということも必要なのかなというふうにも思います。

もともとあった犬山遊園はなくなってしまって、モンキーパークとも縁が切れてしまっているわけですが、一方であそこの木曾川河畔を整備して、みんながあそこで親しむような場所にもう一度還っていくということがあるならば、現代の枠組みの中で新しい犬山遊園という役割を持っていくということもあり得るのかなと。その辺り、大いに議論したり、活発化していく中でどういう名前がふさわしいかという議論を、歴史的な経緯も踏まえて議論していただけるといいなと思います。

私が申し上げたいのはあと2つあるんですけども、1つは犬山に限らず観光戦略をつくる作業にいろんな自治体で関わってきたことがあるんですけども、常に商工の中の観光という立場の観光と、全市的にまさに取り組むべき観光というところのギャップの中で苦しむということはよくあるなという

ふうに思っています、先ほどの話もまさにそうで、商工の立場の話だけではなくて、全市的に協力してもらわないといけないところがある。そこが中々うまくいかないというのも、いろんな自治体で見てきたところでもあって、やはりその観光のほうから声をかけてもなかなか都市整備とか、教育とか、文化とか、いろんなところから十分な協力が得られないというところもあったりして、全市的な広がりが見られないというところがあると思いますので、まさに今回書かれた戦略というのはそれがなければ実現しないところがたくさんあると思いますので、今日ご出席の委員各位、様々な組織の立場、また議員のほうからの立場も含めて、市役所の中での連携や組織を超えた連携が進むように、ぜひ叱咤激励をしていただきたいというふうに思います。

重点プロジェクトと書かれているんですけども、あえて重点プロジェクトとして幾つかの取組みをパッケージにしているということは、それぞれ個々の取組みだけが進むのではなくて、やっぱり小さな構えにならないようにしっかりと大きな構えで打ち出していくということが必要なだろうと、だからこそ重点プロジェクトになっているんだというところが、結局やってみたら個々の施策のつまみ食いになっているということにならないように、やっぱり構えを大きくしていくということが大事だと思うんですね。構えを大きくしていくためには、やっぱりその辺の分野を超えた、組織を超えた連携というのがしっかりと出来ないといけないというところを今後魂を入れていく中でしっかりやってほしいというふうに思います。

最後に一点、90 ページの未来に向けて検討すべきことの中でも書いていただいているんですけども、犬山がかつて観光の名所であったことの一つの大きな要因に、犬山という場所の文化レベルの高さということがあったんじゃないかというふうに思います。しかし、最近犬山が文化レベルが高いというふうに思っているかというところは、ちょっとじくじたる場所もあって、例えば近隣の可児市のほうのアーラという拠点ができたり、扶桑のほうに文化会館があったりということで、文化発信をしっかりとやられている自治体がたくさんある中で、相対的に少し弱くなっているんじゃないかというふうに思います。その辺りもう一回見直して、まさに犬山というところの文化レベルの高さというところをしっかりと出していくような取組みというのが必要なだろうと思います。

最近、特に犬山との比較の中で思っているのは、城崎という温泉のまちがありますけど、まさにあそこは文人墨客がかつて訪れた、犬山もそうですけど、志賀直哉をはじめとして、城崎の温泉では城崎に行かないと読めない小説というのを最近発刊したり、あと城崎の国際アートセンターというのをつくってア

アーティスト・イン・レジデンスで世界中からアーティストが来て、常にそこでいろんなアート活動が行われて発信されて市民も親しんでいるというところが、それがまた観光につながっていることがあると思うんですね。そういう城崎なんかの取組みというのは、かつての犬山の文化レベルの高さと、それをいかに今の観光に生かすかということを考えてときかなり参考になるというか、参照すべき取組みかなというふうに思います。そういうところも念頭に置きながら、今後ご検討いただきたいというふうに思います。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

非常に大きな話ですね、確かに阪神地域における城崎の位置づけと中京地域における犬山について似ているので同じようなことがやれてもいいはずなんですよ。市の総合施策としてこういうのを位置づけてもらうという中で、いろんなところが動いてもらうような仕組みができ上がると本当にいいですよ。

他にいかがでしょうか。ほぼ言い伝えましたかね。随分、今日は。事務局としては今日全体はどういう形で、明日までと言われても困ると思うんですけど、どういうふうにされますか。

事務局

ありがとうございます。

今日も本当に貴重なすばらしい意見をたくさんいただきましたので、この後、いただいた意見はこの場で検討できないものもありますので、具体的にどう変えていくかというところを、できたら会長である西村先生と相談させていただいて、今日徹夜で修正して、明日進められたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

西村会長

最悪、T o D o リストのところでは何か今日出た意見を入れておいて、忘れないようにしておくというふうにやりましょうね。

西村会長

よろしいですか。

随分、全員にご発言いただいたし、全体としてこの戦略をまとめていただいたものが何か一つ、何かが目だということはご発言としてなかったと思いますので、いかにこれをうまくより良いものにするかということと、全市的な施策として位置づけてもらうかということが、それぞれの委員の方々のコメントだと思います。鵜飼とか、非常に深刻な問題もありましたけれども。

それでは、今後の取りまとめに関しては、申し訳ありませんけれども私のほうに一任していただいて、事務局とやり取りさせていただきます。現実的には、

先ほど言いましたように若干の手直ししかできないかもしれませんが、ただこれは今後我々の手から離れて市に行って、その後、パブリックコメントをやって、市の施策として市の責任で若干書き直してもらうという部分もありますので、そういう意味ではいろいろまだやれることはあるんじゃないかなというふうに思います。

また、議会で説明していただくということなので、議員のお二人にはその場でも少しこういうものが全市的な施策としてやるべきで、観光課だけで稼げみたいなことはやめるべきだというようなご意見で、きちんと大きな施策の中に取り込んでもらう。また、これ今後進めていかないといけないので、進行管理をしないといけないので、それをどうするかという辺りも課題になると思いますので、その辺もいろいろと議論を進めていただければというふうに思います。

それでは、よろしいですか、ここまでの議題に関しては。

(意見なし)

西村会長

それでは、全体としてそういう形で今後まとめるということにしたいと思います。

それでは、これとは別に何か、最後ですので何か少しでもご発言があればと思いますけど。

川委員

今回、非常に素晴らしい戦略をつくっていただいたんですが、多分これを読むのは行政の関係者とか、それから学者さんとか研究者の人たちがしっかり読んでいくのかなと。実際に、主体となる市民とか、あと観光関係者は多分ここまで深く全体を読まないと思うんで、その辺を分かりやすく伝えていただくというのと、それから作った方の思いが込まっていると思うんですけど、なかなか文字からは伝わらない部分、これは思いを伝えていただくような機会が何かあるといいのかなというふうに、セミナーみたいな形なのか。完成後のお話ですが、またよろしくお願いします。

西村会長

そこも宿題として考えていただくと。実際に何か概要版みたいなのをつくる予定とかはおありなんですか。

事務局

川委員、ありがとうございます。

そうですね、この戦略の案自体はかなりのボリュームになりますので、概要版A3を二つ折りで両面のものを作って、そちらをもって広く皆さんにお届け

できたらなと思っています。

あと、今コロナ禍なのでなかなか難しいなと思いつつも、いわゆる観光まちづくり会議というのは井戸端会議形式で本当に少人数で、今も現在進行形で、1から5人ぐらいまでで、お話に出向いて、そこで今の最新版の計画を基に、これができたら何が一緒にできますかという話合いを続けています。これは、まだこの後も続けていく予定ですので、規模の大小はあれ、概要版を持っている方の方のところへ会いに行き対話をしていく。対話の中で、実践者という仲間を見つけていくというのを令和4年度、今後、ずっと位置づけていく予定ですので、そんなときに概要版も持ちながら、思いを伝えながら、観光の仲間を増やしていきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

西村会長

ありがとうございます。

よろしいですか、ほかの委員の方々も。

(意見なし)

西村会長

それでは、ここで議論は一応終了したいと思いますので、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

事務局

西村会長、それから委員の皆さん、いろいろと意見ありがとうございました。スケジュール的には明日答申という形なので、この後、また西村先生、よろしくお願いしますと思っています。

それでは、報告事項がありますので担当者から説明させていただきます。

(事務局説明)

事務局

パブリックコメントを含め、これからやっていきますのでよろしくお願いします。

それでは、最後の締めということになりますが、会議で冒頭にもお話ししましたが、これで今日が最終ということで今までたくさんご意見、ご助言いただきまして本当にありがとうございました。これで終わりじゃなくて、ここから新しい犬山観光のスタートというところで、しっかりといろんな戦略を実行していきたいというふうに思っています。

当然、進行、進捗管理が必要になっていくかと思えます。その中では当然、各専門的な見地からのご意見等々も大事だと思っておりますので、また委員の

皆様にはお力添えいただく場面も出てくることもあるかと思っております。ですので、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして第5回犬山市観光戦略会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。